

## 仙人通信 175 南天山(1483m)

南天山は両神山の西に座し、信濃川上と東京の五日市を結ぶ仏像構造線の北側、即ち秩父層の山であり、彩の国ふれあいの森に位置する山である。

中津川沿いに走る三国峠と秩父大滝村を結ぶ林道のほぼ中間地点にある鎌倉橋近くにある駐車ポイントに車を置き、鎌倉沢を遡行し山頂を目指すルートとした。

山際の檜林には、登山ルートを示す体験の森の看板と熊注意の標識が目につく(要注意!)

赤いヤマツツジ・黄色いくサノウの花が咲く、檜林の中の沢の斜面に設けられた登山口からのスタートだ。登山路は沢から 30m程の崖の上の檜林の中である。沢と対岸は新芽が出たばかりの落葉樹林で明るく、瀬音を聞きながら進むと此方も落葉樹林となる。

15分程で沢に架かった丸太を組み合わせた最初の橋だ。鎖の付いた階段とロープの張られた崖を登り進む。沢の両側の崖は、縦縞状の綺麗な節理である。小さな滝の連続の沢には、雲母が入った石英閃緑岩が主体だ。周囲には白いコンロンソウ・ミヤマハハコ・ワチガイソウ・ネコノメソウ・黄色いツルキンバイそしてテナンショだ。山肌では咲きだしたフタリシズカや花が終わったハシドリコロだ。4つ目の橋を渡りスタートから 30分で、法印の滝である。高さ 30m・幅 10m程の水量に恵まれた滝だ。法印との名前が気に入り説明書を探したが見当たらず残念だ。滝の左側の崖を登ると再度檜林の中のコースとなる。小さな滝が連続し大きな瀬音を立てている。スタートから 13 目の橋を渡り登る事 30分で、水量も減った河原状のポイントである。対岸の標識には山頂まで 1400mとある。ここからは檜林の中の九十九折のコースとなる。25分程登るとアセビやヤマアジサイの新緑が混じるコースとなり、更に 5分程で芽吹いたばかりの唐松も加わり、徐々に檜から唐松林へと替わる。突然静寂を破り鶯の鳴き声、そしてカケスが飛び迎えてくれた。西側のブドー沢の頭から三国山までの山脈も望めホ!。1400mの標識から 55分を要し山頂と山の神を結ぶ稜線である。赤紫のミツバツツジがほぼ満開で心を和ませてくれた。ここから山頂までは狭い岩尾根であるも、ロープや鎖は無く 15分を要して山頂に立つことが出来た。東側には両神山が、時計廻りに秩父御岳山・妙法ヶ岳等の三峰山・雲取山・白泰山・笠取山・大菩薩・甲武信ヶ岳・金峰山・瑞牆山・三国山・御座山・雪を付けた浅間山・赤久縄山・御荷鉾山と 360°の展望である。未踏歩の白泰山を除けば想い出多き山々である。休憩込みで4時間 10分(17500歩)で車に戻る事が出来た。帰路は雁坂トンネルを越えて広瀬ダムを廻るコースとした。群青の広瀬ダムの湖面を眺め、乾徳山や西沢溪谷の思い出に漬たる事も出来ました。

道の駅では、金田一春彦さんの御先祖が甲斐からこの雁坂嶺を越え、遠く南部の金田一に逃れて行った事を頭に入れて読まれた碑を眺め、山旅のしめ括りとししました。(h30.5. 11)

山頂



金峰等の山脈



法印の滝



ミツバツツジ

